



## p4cみやぎ1月研修会報告

## 第5回

## p4c みやぎ定例研修会（オンライン）

令和5年がスタートしました。今年も p4c みやぎをよろしくお願ひいたします。

今回は、1月25日（水）に開催された第5回 p4c みやぎ定例研修会についてのレポートです。

研修テーマは、「教科における p4c の実践」ということで、仙台市立台原小学校の鈴木慎吾先生の実践発表をもとに、41名の参加者でテーマについての対話を行いました。講話の中に、実際に参加者が絵画を見ながら問い立てをするなどの活動を取り入れていただき、p4c を通して鑑賞する良さを実体験を通して感じることができました。

## 【研修Ⅰ】

講話：「教科（図工・音楽の鑑賞）における p4c の実践」

講師：仙台市立台原小学校

鈴木 慎吾 先生

## ・教科で実践するまでの経緯

台原小学校教育プラン「自ら考え、共に学びながら表現・行動する力」を具現化するにあたり、“探究的な学び”や“セーフティ”を基盤としている p4c は有効だと考え、校内研究のテーマとも関連付けて図工や音楽の鑑賞に取り入れようと考えた。

また、その際に深い学びで目指す児童の姿を明確にし、学年で共有しながら進めていった。

## ・第2学年 図工科（鑑賞）での実践について

校内研究と関連を図りながら、p4c を実践計画の中に組み込んで実施した。授業に p4c を取り入れるにあたっては、p4c に慣れるということも必要な要素なので、キッズステップなどを活用しながら活動の経験を積ませていった。

図工科実践例の一つとして、ポール・シニャックの作品（ピンク雲、アンティープ）の鑑賞では、「真ん中にあるのは船かな」という問いから、児童は点描や色遣いなどの技法に気付くことができた。

## ・第2学年 音楽科（鑑賞）での実践について

「ゆかいな時計」を取り上げての鑑賞は、

①教材曲を聴く ②一人ひとりが問いを立てる

③今日の問いを決定し、対話を行う

という流れで、「この曲をきいて不思議に思うこと、みんなに聞いてみたいことを問いにしましょう。」という発問をした。児童からは、様々な問いが出たが、「なぜ、こんなに楽しい音楽を作れるのかな？」という問いが選ばれた。掘り下げの問いとしては、

曲の題名を知らせ、「なにが“ゆかい”なんだろう。」と投げかけ、対話を通して曲に対する児童の様々な感じ方・考え方を引き出すことができた。

## ・まとめ

図工科や音楽科の鑑賞を p4c で進める良さとして、対話を通して、自分の見方だけではなく、友達の見方にも触れることができるという点がある。これは、p4c の活動を通して、さらに友達の考えに触れる過程で、学習指導要領にある“一人一人の児童の気付きを交流し合い”、“見方や感じ方を広げる”ということにもつながっていく。また、それを言葉や絵で表現する経験を積んだことで“感性や表現力を高める”ことができたと考えている。

## 【研修Ⅱ】 研修Ⅰを受けての協議と情報交換

## 〈A グループ〉

○p4c を取り入れる良さは、セーフティがあることと、問いを立てさせること。自分の問いや発言したことは、その後もずっと考え続けている。

○「本時のねらいとズレ」への不安については、「単元の目標」とリンクさせ、「思考・判断。表現」や「態度」に関する事項をねらいとする場面で活用するとよい。

## 〈B グループ〉

○図工と音楽の鑑賞について p4c での実践を考えると、図工は作品をずっと見ながら問いを考えることができるが、音楽の場合は消えてしまうので、何回も耳に入れるという事は必要なかと思った。また、楽譜そのものが問いなのかとも思う。

○殆どの教科で p4c を実践したが、算数科だけは実施することがなかった。今日の話合いで、図形などの導入で活用できそうという事がわかった。

○算数の場合は、決まっていることもあえて問い直すことに意味があるという考え方もある。

## 〈C グループ〉

○p4c の活用例の紹介：小学校社会「明治維新、学制発布」の発展で「学校へいくべきか」。中学校社会で熱帯と寒帯の住居を比較し「なぜ高床なのか」、「人権」の発展で「家事は女性？」など。

○ライテックの使い方の紹介：今日は特に「たとえば」を使おうと指示する。対話の中でライテックを使った際、コインなどを置きリアルタイムで意識させる。教材を見せ疑問を出す時に使用。教師が意識して使ってみせる。

HP <http://p4c-miyagi.com/>

Mail [p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp](mailto:p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp)